

静的量的視野検査 例) Goldmann Perimeter; ゴールドマン投影式視野計

準備物 ゴールドマン動的量的視野計・静的視野用付属品・鉛筆・静的専用記録用紙



目的

ある経線での視野の立体的な感度の把握

図) TAKAGI 器械説明書より抜粋

検査の準備をする

動的用のアームのネジをはずし、**静的視野用アーム(55)**をネジでとりつける

記録板位置決めピン(51e)の左側を本体の検者側の記録部左下にある2つの穴の右側の孔にはめ(5°側面より投影される補助固視点と一致)、右側はそれに合わせてはめ込み、ネジで固定し4ヶ所の**止め板(14)**で押さえる

ランプハウスのツマミのついた**保持ネジ(34)**をゆるめ **ストッパープラグ(54)**を抜き取り、**固視用プロジェクタ(53)**をその孔に差し込み、**保持ネジ(34)**で締め付ける

定規の**板ばね(51b)**の両端を上げて測定する経線
の方向に動かし、**記録紙を強度目盛板(51d)**のすぐ下に挟みこみ、用紙の両端の孔と取付けピンを一致させ **目盛板(51d)**の4/eが**記録紙**の最下線1000asbになるように合わせる

スライド(51c)を動かし**目盛板(51d)**を**記録紙0°**に合わせ、**アーム(55)**のピンを**スライド(51c)**の孔に差し込む

固視点より右5°の位置の確定

ネジ(60)を1点の視標が投影されるまで右にねじり(ドームに向かっては左にねじる)、視標をⅢ/4eにセットして1点視標と本機の視標の位置を合致させるように左右は**調整ピン(52)**を**カムヘッド(61)**の孔に差し込み一致するまで左右に動かし、上下のずれは**締付ナット(65)**をゆるめ**ネジ(64)**をねじって一致させ、**締付ナット(65)**を元通り締め付ける

ネジ(60)をねじり**4点視標**にし、検査の邪魔にならず被検者に見える程度の明るさに変える

検査を開始する

30°までは必要に応じ視力矯正を行い、**4点**の中央を見て点滅が見えたら合図する様に、中央から眼を動かさない事などを説明し、視標面積をIにして実際に練習し、視標を消す

動的視野検査と同様に片眼を遮閉し、顎を顎台に載せ、固視監視筒の十字マークに瞳孔が合うようにして瞳孔の直径を計り、視標をI/2d及びD-0.01フィルタ(通常この視標は見えない)に設定して視標を1秒間点灯、3秒間消灯後(順応を防ぐ為)I/2e、I/3a~e、I/4a~eと徐々に動かし視標が見えた合図があるまで1秒間点灯、3秒間消灯を何回か繰り返す

例)

I/3cD-0.01で**見えた!!**

少し前に戻り、再度1秒間点灯、3秒間消灯に見える視標まで繰り返し、再度見えた視標の確認をする

例)

I/3bD-0.01で**見えた!!**

経線0°の**目盛板(51d)**に記載のある上部の目盛位置の**3b**に鉛筆でプロットする

上部の目盛はD=0.01 下部は0.1のフィルタである。すなわち4a=4asb、4a=400asbである。

両側1°、2°、3°までは4点視標の中央を見ながら**4点**内に視標が出ることを伝え、**目盛板(51d)**を**スライド(51c)**で各点に移動させ、同様に見えた視標をプロットする

中心を細かく取ることは重要だが、被検者の疲労を考慮して!

通常の固視点への変更

5°を行なう前に、**固視点プロジェクタ(53)**を取り除くか、**ポラロイドフィルタ(60)**を回して、固視点を消去し、**記録板位置決めピン(51e)**をはずし、記録部左下にある2つの穴の左側の孔と右側もそれに合わせてはめなおし、ネジで固定し4ヶ所の**止め板(14)**で押さえ、通常の固視点に中心を合わせる

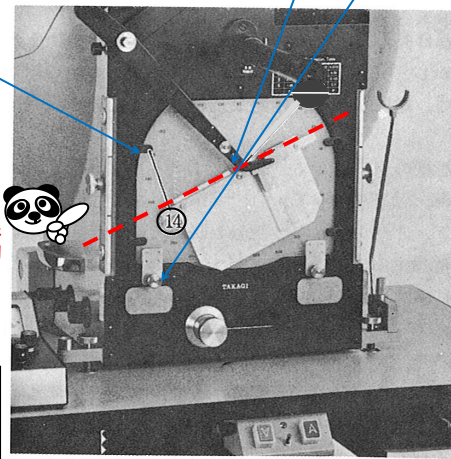
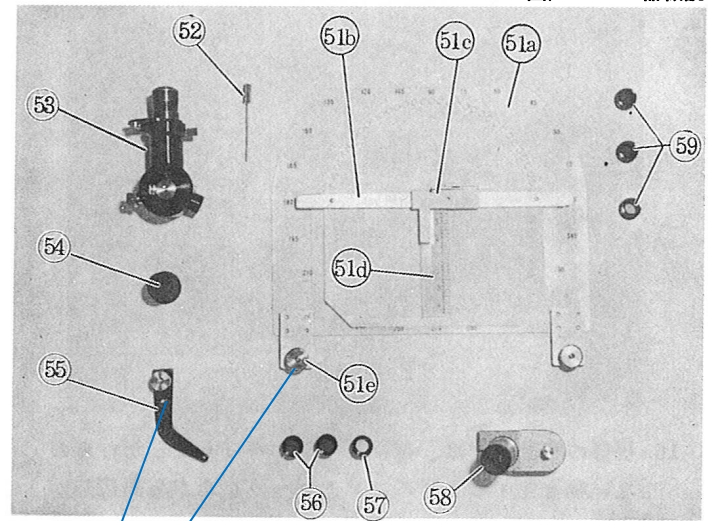
5°、10°、15°(マ盲点の付近はもう少し細かくとる)、20°、25°、30°、40°、50°、60°各点を順番に、固視点から眼を離さずに見えたら合図するように指示し、**目盛板(51d)**の**スライド(51c)**を各点に移動させながら、プロットすることを繰り返す

5°間隔も理想だが...。視標は、鼻側、耳側どちらに出るかは知らせてあげたほうが良いと思う。

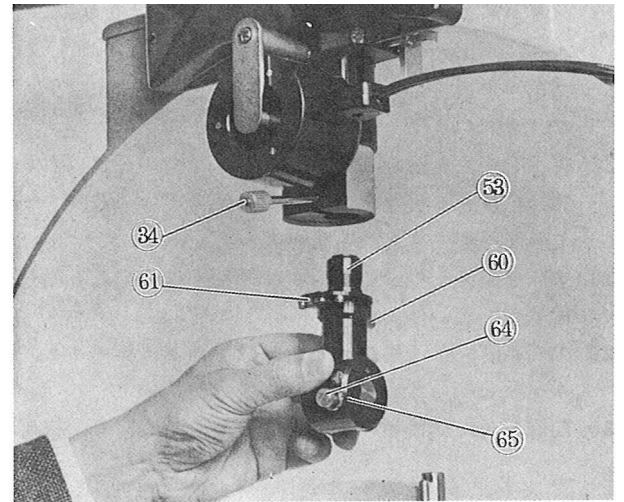
片方のプロットがすんだら、**記録板(51)**の下縁に沿って他側へスウィングし、同様に行なう

検査を終了する

プロットされた点をつなぎ、必要な事項を記入し、本体を元通りにする



破線の経線方向の静的視野をとりた場合。



4点視標は僅かなずれなので、瞳孔をなるべく十字に合わせて監視した方が良い。

結果・記載例)

